

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 環境科学科

職階 准教授

氏名 片平浩孝

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

環境生物学研究室所属の教員として、当該研究室で伝統的に継がれてきた衛生動物学及び医動物学分野の教育を引き継ぐとともに、現代のニーズに即した柔軟な教育展開を目指している。

主要な担当科目は学部3学科にまたがっており、上述した分野に関わる知識普及および教養の涵養に努めている。なお、近年の環境問題の一つである「生物多様性の喪失や維持」に対する関心の高まりを受け、基礎となる生態学やフィールドワーク関連の科目も担当させて頂いている。

2020-23年度クラス担任。

2024-27年度クラス担任。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
衛生動物学(分担)	食品生命科学科	必修	3年前期	39
食品寄生虫学(分担)	食品生命科学科	選択	4年前期	51
医動物学・同実習(分担)	臨床検査技術学科	必修	2年後期	120
地球環境科学(分担)	環境科学科	必修	1年前期	77
SDGsと未来共生科学(分担)	環境科学科	選択	1年前期	98
衛生動物学・同実習(分担)	環境科学科	必修	1年後期	81
フィールドワーク入門(分担)	環境科学科	選択	1年後期	76
環境生態学(分担)	環境科学科	必修	1年後期	84
フレッシュャーズセミナー	環境科学科	必修	1年前期	80
環境生命科学(分担)	環境科学科	選択	2年後期	39
リサーチローテーション(分担)	環境科学科	必修	2年後期	78
科学技術英語	環境科学科	選択	3年後期	
卒業論文	環境科学科	選択	3-4年通年	
科学者研究者論(分担)	環境保健学研究科	必修	大学院1-2年前期	17
生活環境科学特論(分担)	環境保健学研究科	選択	大学院1-2年前期	4

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学びたいことを自らの意思で定めて学ぶ力(あるいはあえて定めないことを選択して学ぶ力)の育成、自主的学びの基礎作りに貢献する。大学卒業後に直面するはずの様々なライフイベントや困難を乗り越えられるような人間力、行動力のある学生を育てたい。

「知る」ことは大事だが、「知らなくてもいいこと」を知ってしまうことで被る「知の不幸」もある。成熟した人間として豊かな人生を送るためには「知の探求」だけでなく、「知ることを選択しない」という高度な回避能力もまた必要である。そのためには自主的な「意思決定の力」を高めなくてはならない。高等教育機関としてそうした技能獲得の機会を提供し、人生を強く生き抜くための礎を提供していきたいとの考えがある。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

基本的に「発達援助」に重きを置くが、学生個々人によっては得意不得意が予想される。したがって、今後の学びを支える礎となるような最低限の学び、知識獲得の経験もまた重要視する。学びの大小に関わらず、できる限り「自分で考える楽しさ」を意識しながら、各学生の興味の幅を広げるきっかけ作り、将来的な可能性や選択肢を広げるような方向にエフォートを割いている。

具体的には、例えば1) 講義は毎回復習から始め、基礎的な学習を繰り返すことによる知識の定着を図る、2) テストには必ず記述問題を入れる、3) 予習に役立つオリジナル資料の提供、4) 関連動画の紹介、5) 研究活動では他大学との積極的交流を推奨し、ある程度の裁量を学生にもたせて任せる、などの工夫を試している。

また、現在の義務教育等における「文章を書く機会、書き方を学ぶ機会の欠如」を憂慮し、文章構造や基礎的な記法を概説し、文章を「書いて」訓練する場をできるかぎり設けている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

特に新入生対象を対象とした実習において、コミュニケーションを測れるような余裕のある時間配分とし、大学生活に慣れてもらうように心がけている。

(2) ICTの教育活用

有

教材の電子化、動画配信

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

オンライン授業の特性を逆手にとって、本来であれば呼べない場所にいる外部講師を遠隔で招き、特別講義を実施していただいている。

(2) 学生の理解度の把握

B

学習状況の把握のために、LMSを利用した小テストおよび課題を実施した。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

講義内で紹介する最新の知見については、文献などの一次情報源を必ず紹介し、利用可能であれば、理解の補助となる動画等の情報も知らせた。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

昨年度の問題を改善し、可能な限り対応した。

(5) 双方向授業への工夫

B

可能な場合は発表会を実施し、スライドの内容や発表の仕方について相互評価を導入した。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

小テストのフィードバックや補足資料の提示に関するタイミングが遅れがちである。一部の教科では改善が進んでいるが、まだ課題は多い。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

本年度は昨年度の反省を活かし、可能な限り対応に努めた。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

引き続き業務配分を自己調整し、余裕のある対応を心がける。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

本年度はクラス担任として新入生のケアに取り組んだ。フレッシュャーズセミナーにおいて、メールマナーやレポート作成法を重点的に紹介するとともに、他の教員と協力連携しながら大学生活に関する説明を試みた。

また、本年度は実施が叶わなかったが、これまで同様に分野最先端の現場にいる専門家を講義に招き、より具体的かつ現実に則した実のある内容の話題提供を頂くことで、学びを身近なものとするよう外部との調整を続ける。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

フレッシュャーズセミナー(授業評価を抜粋)：

グループワークが沢山あって、あまり話したことのない人と話すいい機会になった・社会に出ても大丈夫なような授業がとても身になった・大学や図書館の探検などが楽しかったです。ゲストの方がいると飽きなくておもしろかったです・不安があったところを少しは解消できた・グループワークを通じて仲良くなった。ハラスメント講習は良かった・個人が活躍できる場が設けられたこと・フレッシュャーズセミナーの授業を受け、麻布大学のシステムの使い方や学内の施設の使い方を知ることができました・メールの書き方、思考の教室はずっと役に立つので受けてよかったと感じた・学校生活や社会生活ができるようにすべきことが分かりやすく学べて良かったです

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

スケジュールの都合がつかず、ほぼ参加できていない。欠席回については録画を視聴することで知識の補完に努めた。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

短期目標：授業・教育レベルの安定化(内容の充実も含む)

長期目標：理念・姿勢が周りに認知・理解されるようなわかりやすい教員像作り

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

・他大学学生との積極的な交流機会の提供例

研究室所属学生の数名が企画運営に携わり、事項紹介や研究発表をしている。

<https://mammalreskikaku.wixsite.com/mammal>